

B O O K

『医真菌
同定の手引き (第5版)』

原書著者 共 訳
D.H. ラローン 山口 英世 (監修)
吉田 敦
鈴木 秀鷹
奥住 捷子

2013年12月24日発行

Davise H. Larone教授 (Cornell大学)による“Medically Important Fungi : A Guide to Identification”は、初版(1975年)以来、米国の臨床検査室で真菌の同定に係る臨床検査技師の間で広く使用されてきた実績のある、微生物検査の現場で役に立つ本物の「手引書」である。第4版(2002年)から第5版(2011年)に至るこの10年間は、分子生物学的同定・解析技法がこの領域に導入され、その結果、真菌分類学に大転換が起き、菌種や菌名の改訂も余儀なくされ、真菌検査を実施している臨床検査技師が働く現場に混乱をきたした。一方、分子生物学的な新知見から、個々の病原菌種の形態学的・生化学的特徴がより明確になったことも歴史的事実である。このため第5版では「分子生物学的手法による真菌同定の基礎技術」のセクションが新たに加えられ、臨床真菌学的検査分野での最新の情報が提供されている。

しかし、正確な同定をするために最新の手法に頼らざるを得ない臨床的に意味のある真菌は少数であり、初版以来、この「手引書」では大多数の真菌については菌種に特異的な形態学的特徴と生化学的特徴に基づく同定を基本としている。すなわち、検査技師が肉眼的観察および顕微鏡の観察によって分離菌の形態学的特徴を知ることの重要性が強調されており、それだけでも体系的に菌種まで同定できるように記載されている配慮が、初版から36年後の第5版まで貫かれていることは特記したい。

臨床検査の現場で働く人々にとって本当に意味がある明瞭簡潔な文章と167点のカラー図版、個々の菌種の白黒写真と素晴らしいイラストが本書の最大の特徴である。

第5版の序文で、「本書の各版は、臨床真菌検査室で働く検査技師の方々やこの分野に興味のある人達に対して、臨床現場で遭遇する真菌の同定が、より一層論理的で理解しやすく、しかも楽しい仕事になることを願って執筆したものである。」と述べられている。ここにASM(米国微生物学会)から長年にわたり本書の改訂版を継続して発行しているD. H. Larone博士の神髄がある。

この名著が「医真菌 同定の手引き」として、今回、獨協医科大学の吉田敦先生、鈴木秀鷹先生、奥住捷子先生によって訳された。この3名の方はいずれも臨床検査の第1線で実際に実務に深くかかわっており、原著者の「志」を理解できる最適な翻訳者である。監修と翻訳を担当されたのが、わが国の臨床真菌学の泰斗である山口英世帝京大学名誉教授である。山口先生は、本書の監修者のまえがきとして、「とりわけ感銘するのは、この手引書が臨床分離されるありとあらゆる真菌を漏らさずカバーしていること、分類・命名法や検査技術に関する最新情報を逸早く取り入れていることなどに加えて、終始現場の従事者の視点に立って記されている点である」と述べられており、私も山口先生の原著者への評価に強い共感を覚える。そしてD. H. Larone博士の日本語版第5版への序文からは、監修者の山口名誉教授と3名の翻訳者の方への信頼と温かいメッセージが伝わってくる。

漏れ聞き及ぶところによると、先生方はこの翻訳書の出版社を探すのに大変に苦勞をされたようである。本書の以前の改定版は翻訳書専門の出版社から発行されていた。しかし昨今の医学系出版社は、いずれもこの分野の翻訳出版には二の足を踏むようである。その理由の一つは、我が国では臨床真菌学に興味を持つ読者は少なく、予測販売数が少ないために、どうしてもこの分野の翻訳書は高価にならざるを得ないという悪循環に陥っていることにある。

このような困難な状況の中で、本書の出版を決断された栄研化学株式会社社長(当時、現・会長)の寺本哲也氏に、我が国の臨床微生物学の健全な発展を願ってやまない私からも改めてお礼と敬意を表したい。

上尾中央総合病院臨床検査科科長/感染制御室室長 熊坂一成

販売：栄研化学株式会社 TEL 03-5846-3304 FAX 03-5846-3476

(申込方法)・商品は直販方式をとっております。一次販売店、書店では販売しておりません。

弊社宛に直接、申込書でFAXにてお申し込みください。詳しくは次のホームページをご覧ください。

http://www.eiken.co.jp/product/other/pdf/medical_myecology.pdf